

①手向山八幡宮（たむけやまはちまんぐう）

東大寺の東に位置する手向山八幡宮は、749年東大寺大仏の守護神として宇佐八幡宮を勧請（かんじょう）し成立した。その後、南都焼討ちで焼失して現在地に再興された。春日大社から離れて以降氏神を持たない東之阪町の人々を氏子に迎えた。

1985年の玉垣建て替えの際には、周辺の自治会とともに、東之阪町自治会も協力した。

*バス市内循環「大仏殿春日大社前」バス停下車、北へ 600m



②辛国神社（からくにじんじゃ）

東大寺大鐘楼の西北に位置する。鳥居が二つある小さな神社。東大寺の造営に尽力した朝鮮半島からの渡来人である僧や技術者、関係者の祖神を祀ったといわれる。東大寺の建立には、良弁僧正（ろうべんそうじょう）、行基（ぎょうき）、猪名部百世（いなべのももよ）、国中公麻呂（くになかのみまろ）など多くの渡来系の人々が関わり、その役割は極めて大きかった。毎年5月21日に祭りが行われる。辛国は、韓国の当て字である。

*バス市内循環「大仏殿春日大社前」バス停下車、北東へ 600m



③戎川（えびすがわ）

佐保川石橋から上流へ戎神社までの間は、戎川と呼ばれる。この戎川流域は、奈良時代から太鼓の皮なめしにとって、ことに水質・流勢・寒暖の差などで最適の地とされていた。ここで皮をさらせば、音色・色彩に優れた太鼓の革ができあがり、他国に例を見ないほどであったと伝えられている。現在も、東之阪町内に「太鼓屋」という家号が存在する。

*バス青山住宅方面行き「今在家」バス停下車すぐ



④奈良豆比古神社（ならづひこじんじゃ）

奈良市の北端にある志貴皇子（しきのみこ）を祀る神社。奈良阪の氏神さんとしても親しまれている。春日王の病氣平癒を祈願して始まったとされる「翁舞（おきなまい）は、能や狂言のもとになり、国の無形民俗文化財となっている。近代にいたるまで、歌舞音曲の神として広く信奉された。境内には万葉樹の「児乃手柏（このてかしわ）や、県指定天然記念物の「樟（くすのき）が千三百年の歴史を刻む。

*バス青山住宅方面行き「奈良阪」バス停下車、西へ100m



⑤北山十八間戸（きたやまじゅうはっけんど）

光明（こうみょう）皇后の創建伝説があるが、鎌倉時代の僧忍性（にんしょう）ないしは良恵（りょうえ）が皮膚病者（ハンセン病を含む）救済のために建てたものとされる。当初の建物は般若寺の北東文殊山に建てられたが、1567年に戦火で焼失し、17世紀前半に再建された。18世紀に興福寺から東大寺の支配下に入り、日本最古の「救らい施設」で、国の史跡として保存されている。

*バス青山住宅方面行き「東之阪町」バス停下車、西へ100m



⑥春日大社と神人（じにん）

1136年に始められた春日若宮祭（かすがわかみやまつり）はおん祭りと呼ばれ、大和国（やまとのくに）最大の祭礼である。若宮の移動には、清目（きよめ）をする神人が必要であり、中世賤民がその役目を担った。1672年、奈良奉行は、鹿の保護と民衆を守るため、鹿の角伐（つのき）りを神人に命じたが、神の使いと畏怖（いふ）された神鹿（しんろく）を取り押さえることを許されるのは、神人のみと考えられたからである。

*バス停春日大社本殿行き「春日大社本殿」バス停下車、東へ100m



⑦般若寺（はんにやじ）

飛鳥時代に高句麗僧慧灌（えかん）が開創し、746年に聖武天皇が平和を願い、大般若経を奉納したことから般若寺と名づけた。895年から学問道場として学僧千余人が活動してきたが、1180年平家の南都焼き討ちにあい伽藍（がらん）はすべて消失した。しかし民衆の力で1195年に復興した。その後叡尊（えいそん）とその弟子忍性（にんしょう）や良恵（りょうえ）により、定住できない病者や貧者の救済事業が行われた。

*バス青山住宅方面行き「般若寺」バス停下車、北西へ50m



⑧多聞城址（たもんじょうし）と地藏尊

1573年、多聞城主松永久秀は織田信長に敗北、信長配下の筒井順慶は多聞城を壊して石垣を大和郡山城の築城に利用した。この時、石垣に使われていた石仏をこの地に残した。

野ざらしにされた石仏地藏尊を周辺地域の人々が持ち帰り手厚く祀ったと伝わっている。特に、東之阪町内では、辻々や自宅の庭に安置されており、今も驚い地藏信仰が続いている。

*バス青山住宅方面行き「今在家」バス停下車、北西へ300m



⑨A 奈良奉行所跡とB 川路聖謨（かわじとしあきら）植桜楓の碑

奈良奉行所跡には、現在の奈良女子大学がある。

1846年1月から51年6月の間、川路聖謨が奉行として着任、鹿殺しの罪等での拷問、残虐刑の廃止、貧民救済の資金作りに取り組む一方、桜や楓の植樹等を行い奈良公園の基礎を築いた。川路在任中の日記『寧府記事』（ねいふきじ）には、被差別民衆の皮革技術の精巧さや生きる知恵を称賛する記述が残されている。

*⑨Aへは、近鉄奈良駅から北へ300m

*⑨Bへは、「県庁前」バス停下車、南へ500m



⑩A 光蓮寺（こうれんじ）・B 五劫院（ごこういん）

鼓阪（つぎか）小学校は、1874年に五劫院を仮校舎に又新舎（ゆうしんしゃ）として発足したが、東之阪町の子どもたちは「風俗習慣ヲ異ニス」として隣接町民から忌避・排斥された。そこで、町内の光蓮寺（1792年建立）を校舎に精勤舎（せいきんしゃ）が開設され、1883年の本校との合併まで、部落学校として存続した。

奈良市内だけでなく県内各地でも、同様の差別による共学拒否があった。

*⑩Aへは、バス「今在家」バス停下車、北へ500m。

*⑩Bへは、バス「今在家」バス停下車、東へ200m。



⑪A 水平社事務所跡とB 旧奈良監獄

1923年、水国争闘（すいこくそうとう）事件で水平社同人が旧奈良監獄に収監され、裁判闘争支援のために「全国水平社奈良事務所」が東之阪に置かれた。投獄された駒井喜作の姉婿・松谷喜三郎で、面会/差入れや弁護士選定など救済活動に奔走した。上文にある旧奈良監獄は、1908年に開設され、1946年の監獄法改正により、奈良少年刑務所となったが、2016年3月31日に廃庁となった。

*⑪Aへは、バス青山住宅方面行き「今在家」バス停下車、北へ150m

*⑪Bへは、バス青山住宅方面行き「般若寺」バス停下車、西へ300m



⑫八木一男顕彰碑

故八木一男代議士は1911年6月、奈良市東向北町に生まれた。福祉・医療・同和問題をはじめ社会保障の充実のために努力し「社会保障の八木」として親しまれた。特に、「同和対策審議会」や「同和対策事業特別措置法」の成立に力を尽され、奈良県における部落解放の父と呼ばれていた。故人の遺徳をしのび、今小路町に顕彰石碑が建てられている。

*バス青山住宅方面行き「今小路」バス停下車、西へ50m



⑬県内初の夜間中学（東之阪地区養護学級）

1950年奈良県初の夜間中学校が東之阪若草保育園に誕生。

中学生の就労による長欠対策の一環として、若草中学の教員と地域青年団の熱意で運営された。週5日、午後7時から9時開校、56年までに364名が在籍し、57年には一応の長欠解消を見た。

以後、補充学級に転換し、今ある県内3公立夜中、3自主夜中の先駆けともなった。

*バス青山住宅方面行き「東之阪町」バス停下車、南西へ150m



⑭大日橋（だいにちばし）

東之阪町と隣町の間を結ぶ大日橋は、老朽化して破損し、欄干もなく、幅の狭い非常に危険な橋であった。そのため1970年代から架け替えが要求されていたが、なかなか実現せず、奈良市における「橋のない川」とも目された。2004年4月ようやく積年の念願が叶い、新しく丈夫な橋が完成した。現在では「交流の橋」としての役割を果している。

*バス青山住宅方面行き「東之阪町」バス停下車、東南へ150m



⑮植村牧場

1883年創業で、街の中にある牧場として地元で親しまれている。1975年頃から知的障がいのある若者を迎え、現在は15人の仲間が通所している。彼らは牛のえさやりから牛乳しぼりなど、それぞれのスタッフが自分にあった仕事と時間で、元気に明るく働いている。

また、乳製品の直売所や映画監督の河瀬直美さんが命名されたレストラン「いちづ」がある。

*バス青山住宅方面行き「般若寺」バス停下車、西へ200m

